

令和4年度 市政懇談会 ゆかり市長とまちかどトーク 議事録要旨

開催日・会場・参加人数

開催日時 令和4年6月24日(金) 19時00分から20時15分まで
場 所 諏訪市中洲公民館 講堂
参加人数 17人

特定テーマ「地域公共交通」について

■電車通学に対応したバス路線について・バス停について

【発言者】

電車通学している高校生に対応したバス路線を作ってほしい。土日の部活などに利用できる、電車との接続に対応した便がほしい。

バス停に雨避けやベンチを設けて欲しい。バス停に趣向を凝らして観光客が集まり、話題になっている事例をTVで見たことがあるので、上社周辺など観光客が集まるところで工夫するとよいと思う。神宮寺から茅野へも広域で考えていただけるとありがたい。

【市長】

どこの駅を利用されるかということも関係する。行政界を越える路線については、市単独の計画ではできない部分がある。これからは、利用者の利便を考えないと利用されない。利用されない効果が生まれないため、行政間の調整、合意など時間がかかるかもしれないが検討課題になる。

■運転免許返納後の移動手段案内について

【発言者】

家族が通勤にかりんちゃんバス、岡谷茅野線を利用しており、ありがたい。

地域の高齢者から、日赤に行っているが、帰りのバス(11時頃)がないと言われた。時刻表を何度も確認してみると、かりんちゃん子バスが運行していることを見つけた。

かりんちゃん子バスは、地元地区を通っていないと認識していたため見落とししていた。諏訪市には多くの路線、時刻表があるが、高齢者がこれを見て探すのは難しいと実感した。

インターネットで検索できるサイトもあるが、高齢者は、インターネットが使えない方も多く、バス停に路線図を貼り出してほしいと要望を受けたこともあった。

運転免許返納者にはかりんちゃんバス回数券が配布されているが、移動手段について相談、案内できる体制が作れないかということをご提案したい。

【市長】

窓口で確認できるコンシェルジュ的なサービスのご提案として受け取った。

■バスの正確な運行について・バス停について

【発言者】

バスを使わない理由は、バス停に着いた時にすでにバスが行ってしまった経験があり、運行状況が分からないためである。

時刻通りに運行していれば利用できるが、来るか来ないか分からない不安があり、利用を敬遠してしまう。定刻前にバス停に着いたときは、時間まで停車するなど正確な運行をしてほしい。

【市長】

時間前に出発することがあるのか。

【地域戦略・男女共同参画課長】

基本的に時刻表の時刻以前に出発することはない。早くバス停に着いた場合は、時間まで停車してもらうよう運行事業者に周知したい。

【市長】

最近、DX（デジタルトランスフォーメーション）の取組の一つとして、運行状況がスマートフォン等で確認できるサービスがある。

高齢者には難しい面もあるが、次世代に向けてサービスをバージョンアップしていく可能性として考えていきたい。

【発言者】

お年寄りには、そうしたツールが使えないことも多い。「待つ」ということが大事だと思う。そのためには、交通の妨げにならずにバスが停車して待つことができるスペースを確保するべきだと思う。また、利便性を図るのであれば、屋根付きバス停の設置なども配慮してほしい。

【市長】

バス停を用意するには、道路交通法や警察の許可など手続きが必要である。屋根や待合があるバス停が全てかということでは現状ではそうでない。ご意見、ご要望をいただいたので研究課題とさせていただきたい。

■観光面での交通機関の充実について

【発言者】

観光客から公共交通機関の充実について要望が寄せられていると聞いている。

現在、タクシーで諏訪大社四社巡りを行うと2～3万円かかる。行政界を越える部分もあるが、観光面での交通機関の充実も考えてほしい。

【市長】

バスで対応するのがよいか、タクシーの利用がよいか検討が必要。他の観光地ではタクシーで巡る観光コースメニューがあったりもする。バス、タクシー会社、観光協会、行政と一緒に考えることも一つの方法だと思う。ご要望があると受け取らせていただいた。

【発言者】

業者を交えて検討したこともあるが、運行上や法律上の問題があると難しい面もある。その辺も踏まえて検討してほしい。

【市長】

かなり規制緩和されてきているので、可能性を排除しないように研究させていただく。

■バスに関する財政について

【発言者】

現在、1億円かけて運行しているということだが、新しい方法を検討するとき3億円かけることができるならば3倍便利になる。財政的な考えについてお聞きしたい。

【市長】

利用者が減少している中で、利便性を維持しながら新たな仕組みができないかというのが今回のテーマである。現状の予算を超えない範囲で新たな仕組みができて、皆さまの利便がよくなることを目指していきたい。

【発言者】

お金をかけないと現状を脱却するのはなかなか難しい。大型車両の活用も難しい。タクシーの活用、ドアtoドア方式、オンデマンドの活用、また、地域で支えるという面では、車を持っている人たちが支える仕組みも研究してほしい。

【市長】

オンデマンドで利用する車両は、10人乗り車両やタクシー車両を使うところが多い。現在、検討しているのは発言いただいた内容の方向なので、それを研究したい。

■内回り線について

内回り線について、朝2便と夕2便は地元地区を運行しているが昼間3便は運行していない。昼間の時間帯も1便くらい運行してほしい。

【市長】

それはデマンド方式でもよいか。それとも定時定路線で通るバスをご要望か。

【発言者】

お年寄りには、デマンドだと利用できないこともあるため、当面は定時定路線で1便でも運行してほしい。

【市長】

要望として受け取り、検討させていただきたい。お年寄りにとって扱いやすいオンデマンドという課題もあると受け取らせていただいた。

フリーテーマ

■通学路の舗装修繕について

【発言者】

キョロブラ活動で子どもたちと一緒に歩いているが、通学路の凹凸がひどく、雨天時に車からの水はねがある。道路維持管理車が走っているのを見かけるので、通学路を点検し、優先的に修繕してもらえないか。

【市長】

担当部署に伝える。今後もお気づきの時にお知らせいただきたい。

■職員の交通マナー徹底について

【発言者】

子どもたちが雨の中、横断歩道で待っていたら諏訪市の公用車が停止せずに走って行ったことが主任児童委員の部会の中で話題になった。市民の信頼を得られるよう、市の看板を背負っている意識を持ち、徹底的にルールを守ってほしい。

【市長】

皆さまにマナーを守ることをお願いしている立場でもある。ルールを守るよう、再度徹底する。

■災害時のリスク回避の取組について

諏訪市のハザードマップが改訂され、説明会にも参加した。とても良いハザードマップ。

河川の氾濫などのリスク回避をどのように考えているか。

【市長】

河川については、水位計や雨量予測、気象庁からの情報提供等により避難指示を出すことになる。氾濫を防ぐには、川幅の確保や河床掘削で容量を確保する必要がある。

諏訪湖の水位は、釜口水門の水位が下がらないと溢れてしまう。釜口水門の操舵規定について、柔軟な対応をしてもらいたい旨、伊那谷の市町村と諏訪6市町村が一緒になって国交省に要望しようと調整が始まっている。

宮川については、茅野市の地区と話をし、水門を設置し、用水をコントロールすることで水がつくことを減らせるのではないかと実験をしているところ。効果があれば地域の水害を減らすことができる。

以上

令和4年度 市政懇談会 ゆかり市長とまちかどトーク 議事録要旨

開催日・会場・参加人数

開催日時 令和4年6月28日(火) 19時00分から20時30分まで
場 所 諏訪市湖南公民館 講堂
参加人数 32人

特定テーマ「地域公共交通」について

■デマンド交通の見直しについて

【発言者】

デマンド交通を4月1日に見直しをいただいた。主にお年寄りが病院へ行くのに利用している。豊田診療所へ行く際には今の時間帯で間に合うが、日赤病院へ行く際には時間がかかる。11時30分頃の2便では間に合わない。そのため、時間にこだわらず利用できる体制が取れないものか。また、見直しする際には話し合いの機会を設けていただければと思う。

【地域戦略・男女共同参画課長】

後山のデマンド交通は4月から変わり、利用してみてのご意見もあると思うので、機会を設けたい。

■地域公共交通計画で主要となる路線について

【発言者】

公共交通機関は、自家用車とは違い行きたいところへいつでも行けるというものではない。そこがハードルだと思う。しかし、どこへでも行けるという仕組みを作ると費用がかかるため維持が難しくなる。今後、地域公共交通計画の中でデマンドタクシーを見直していく際に、こういった路線を中心に利便性の向上を図るのか。

【市長】

皆さまのご意見を聞きながら取りまとめていきたい。自家用車で動ける方は、公共交通をあまり利用されない。そうすると、自家用車を所有していないご高齢の方や通学の子もたちが利用の中心となっている。訪れる場所として駅や病院、商業施設等があるが、場所の要望等はアンケート等で調査をさせていただく。

【発言者】

少しイメージが違う。もっと目的を持った路線をしっかり作って運用した方がよいと思う。例えば、通学なら通学用にもっと利便性が高く、本数を増やすなど。病院や通学はマス

トだと思う。そういったところをデマンドタクシーで担保して利便性を高めていけば利用者は増えるのではないかと。総花的にやろうとすると難しいのではないかと。

【市長】

バス停のような、デマンドタクシーが停車する場所は確保しなければならない。似たような時間帯に目的地へ行きたい方々を拾いながら路線バスよりも早く行けることがデマンドタクシーの良さである。ご発言いただいたようなことについて、どのくらい需要をカバーできるかは、今後調査、研究していきたい。参考にさせていただく。

■諏訪市の公共交通に関する取組について

【発言者】

オンラインの移動外出支援フォーラムに参加し、他市町村の取組を聞いたことがあるが、諏訪市は何の取組もしていないと思っていた。本日の話を聞き、非常に前向きに取り組んでいると感心した。ぜひ、よい方向に進めていただきたい。

【市長】

これまで、湖南地区のご高齢の方から交通手段について要望が出ていたので気になっていた。平成25年度に諏訪市生活交通ネットワーク計画を策定したが、1～2年で計画を変更するというのは行政的に難しい。一通りの計画を実行する期間は必要だったと思う。

また、地域公共交通協議会でお墨付きをもらうことによって、デマンドタクシーや白ナンバーの承認が可能になる。全国で先進事例としてある。それが諏訪市でもできるのではないかと検討してもらっていた。令和2年に地域公共交通の活性化及び再生に関する法律が改正されたことにより、これまでの協議会を公共交通活性化協議会に衣替えし、扱う可能性を広げた。そのこともあり、今回新しい地域公共交通計画を策定することとなった。

【市長】

湖南地区から茅野方面へ行かれる方はどれくらいいらっしゃるかと。
(3人程度)

フリーテーマ

■県道岡谷茅野線蓼宮橋付近の振動・騒音について

【発言者】

道路のへこみにより、大型車が通ると昼夜問わず振動・騒音がひどい。県道なので、市で対応できないことは承知だが、どのように要望すればよいか。

【市長】

区長を通じて県に要望していただく。市からも県に伝える。

■県道岡谷茅野線大型車交通規制について

【発言者】

6月県議会で岡谷茅野線大型車交通規制について質問があった。答弁からは、県では早期に新川バイパスや新川改修に取り組む姿勢が感じられなかった。市の受け止めは。

【市長】

高速道路でなく一般道を走る場合、岡谷茅野線が便利で夜中でも大型車が多く走る。国道20号バイパスが開通すれば利便性も高く利用が期待されるが、完成までには時間を要する。完成までの間、いかに事故やストレスを減らすかが課題。解決のためには新川バイパスで生活道路と大型車などの通過車両を分ける必要があると考えている。

【発言者】

国道20号バイパスの完成には時間を要することを承知しているので、新川バイパスと新川改修について、県に強く働きかけていただきたい。

■県道諏訪箕輪線未舗装区間について

【発言者】

視石付近に30メートルくらいの未舗装区間がある。昨年末にスマートインターチェンジ整備事業の関係で舗装を剥がしたものの。県に舗装をお願いしているが半年経過した現在も未舗装。市から県にお願いしてもらえないか。

【市長】

仮置きされている土砂であり、使用する際に搬出するため、もう一度トラックの出入りがある。そのため、県では舗装のタイミングを図っている可能性がある。皆さまの生活でどのくらいの影響があるのか詳しくお聞かせいただきたい。

【発言者】

通行する車がかなり減速しなければならない。減速しても、車に積んでいる種苗がひっくり返るほど。高齢者が利用するデイサービスの送迎車も、かなり気を遣って走行してくれるが、それでも乗車する高齢者が怪我をするのではないかと心配するほど。壊れたら直すのが基本なので、舗装を戻してほしい。

【市長】

日常生活に支障がある旨を県に伝える。

■湖南地区の商業支援について

【発言者】

近年、湖南地区に若い世代の出店者が続き、活性化が見られる。それらの店舗が繁盛していることに刺激を受けている。湖南地区の商業者が団結して湖南地区を活性化させたい気持ちがあり、更なる賑わいの創出を目指してイベントを企画したいが、小さな商業会組織では資金不足で実施できない。そんな中、市の商店街活性化のための資金により大きなイベントを実施し、成果があった。そのことに感謝申し上げる。今後も助力をお願いしたい。

【市長】

様々な工夫をされて活動されていることに敬意を表する。市で応援できる部分は応援したいので具体的な計画ができたなら相談いただきたい。

■諏訪市観光ランドデザインについて

【発言者】

諏訪市観光ランドデザインの中になぜ農業がないのか。諏訪市において観光は重要なものであるが、農業が含まれないのは腑に落ちない。農業を外しているのではないか。他市町村で実施しているような農業の実践観光などを考えてはどうか。

【市長】

今回のものが諏訪市観光ランドデザインの完成品というわけではない。今後の観光振興に向けていろんな視点から可能性をまとめたものと捉えていただきたい。改訂し、バージョンアップする可能性を持っている。現在でも、いちご園など農業と関連した観光施設があるように、結び付けられるところを作りたい。

【経済部長】

農業が人を呼ぶことに可能性を感じている。誘客のために具体的にどういった取組を行うか考える事業があるため、いただいたご意見を検討内容として加えたい。

また、産業連携推進室でワーケーションに取り組んでいる中で、農業体験のモニターツアーを予定している。結果によりコンテンツに加えていきたい。

■通学路の危険個所について

【発言者】

昨年、千葉県八街市で起きた下校中の痛ましい事故を受けて、諏訪市でも通学路の点検を実施したとのこと。その結果、危険個所として示された場所と対応状況を知りたい。

【市長】

点検の結果、対応可能な箇所から実施している。道路状況により、保留しているところもある。担当課から各区長宛てにお知らせする。

以上

令和4年度 市政懇談会 ゆかり市長とまちかどトーク 議事録要旨

開催日・会場・参加人数

開催日時 令和4年7月1日（金） 19時00分から20時10分まで
場 所 諏訪市豊田公民館 講堂
参加人数 20人

特定テーマ「地域公共交通」について

■公共交通を利用することについて

【発言者】

かりんちゃんバスを利用していないが、イメージとしては目的地まで時間がかかること、高台の住宅からバス停まで坂道を上り下りしなくてはならないことが懸念材料。そのため、できるだけ自宅付近から利用ができ、目的地まで早く行けることが理想である。そのあたりの工夫、改善が必要だと思う。

【市長】

乗り合いデマンドなどの運行形態が利用しやすいということか。

【発言者】

そうした手段が活用できて、身近なところから乗降でき、短時間で到着すると利用者が増えるのではないか。

【市長】

市では後山地区と霧ヶ峰の2か所でデマンド運行を行っている。これは、停留所を設け、リクエストに応じて運行する形態で、市街地では現在のところ運行していない。

自家用車が普及している現在、コースを周回するバスの運行形態は、時代にそぐわないかもしれない。そうした中で免許を持たない方への移動手段の確保が課題と認識している。

■夜間運行と運賃について

【発言者】

会食時にバスを利用した経験があるが、帰りも運行して欲しいと思う。タクシー替わりではないが、オンデマンドで帰りも利用できるとよいと思う。現在、タクシーで末広から有賀まで2,500円くらいかかっているが、三分の一くらいの運賃で利用できるとありがたい。

【地域戦略・男女共同参画課長】

帰りのバスのご要望であるが、現在、19時～20時頃まで運行しており、公共交通とし

ではこのくらいの時間までご理解いただきたい。

■自家用車の活用について

【発言者】

自家用車を1人で利用することが多いが、バス停で待っている高齢者を見かけると同じ方向に向かうのであれば乗せてあげたいと思ったことがある。運転者を登録し、外出時に希望者がいれば同乗させられるといった手法も考えられないか。

【市長】

既にカリフォルニアではウーバータクシーとして運用されている事例がある。日本では、料金を受け取ると白タク行為で違法になってしまう。

また、タクシー業界の保護や様々な法律の中で制約がある。

しかし、その発想は大事であり、研究課題として受け取らせていただく。

■新たな発想での誘客について

【発言者】

「乗り鉄」ならぬ、「乗りバス」的な発想での取組はできないか。かりんちゃんバスに乗車するといろいろな景色が見られるので、それを売りにして始点から終点まで乗車してみる、全路線走破者への特典など、単なる交通輸送だけでなく、遊び的な発想、企画商品として活用できないか。

【市長】

観光客へのアピールなどもできると思う。ご意見として受け取らせていただく。

フリーテーマ

■包括外部監査制度について

【発言者】

包括外部監査を導入してはどうか。

【市長】

ご提案として承る。

■小中一貫教育の進捗状況について

【発言者】

今後進められる南部地区、西部地区は施設分離型の小中一貫教育となるが、その効果は。検討状況や進捗状況を伺いたい。

【市長】

ゆめスクールプランは、将来的に諏訪市内3つの小中一貫校にする目標で進めており、現在は、段階的に整えていく途中である。

【副市長】

ゆめスクールプランの最終的なゴールは、諏訪市内3つの校舎一体型の小中一貫校を作ること。それには、大変多くの時間と費用がかかる。すぐに最終目標にたどり着くことはできないため、校舎が離れた状態であっても、どのような一貫教育が進められるか検討している。

【教育長】

小学校と中学校の段差をできるだけ少なくすることを目的にしている。小中一貫教育については、ハード分野とソフト分野があり、ハード分野は今お話ししたとおり容易にできない。ソフト分野は、小中一貫校の成果を早期に全市に広めていくこと。令和5年度から全市でスタートするという目標がある。今年度は、中学校区ごとに小中学校統一の教育目標を立てる段階。

今ある中で考えられることは、例として教科担任制度の導入がある。小学校高学年に教科担任制を取り入れることで中学校との段差をなくすることができるのではないかと。中学校の教員が小学校に出向くことも考えられるが、校舎が離れている現状では、小学校の教員の中で対応するののも一つの方法。どの教科で導入するか12月頃には示したい意向で進めている。

【発言者】

ゆめスクールプランの最終目標は30年後だった気がするが、前倒しして早く進めた方が良い。

■地区への入区案内の作成について

【発言者】

地区ごとの特色が分かるような入区案内のひな型を市で作成してみてはどうか。

【市長】

市民課で入区案内をお渡ししている。

また、不動産会社との申し合わせにより入区を勧めてもらおうようお願いしている。

【発言者】

各区で特徴があると思うので、そのことを盛り込めるような案内を区で作成できるように市から指導していただくのはどうか。

【市長】

ご提案として承る。

以上

令和4年度 市政懇談会 ゆかり市長とまちかどトーク 議事録要旨

開催日・会場・参加人数

開催日時 令和4年7月7日(木) 19時00分から20時10分まで
場 所 諏訪市四賀公民館 講堂
参加人数 20人

特定テーマ「地域公共交通」について

■かりんちゃんバスの印象について・デマンド交通導入後のタクシーについて

【発言者】

個人的にはかりんちゃんバスをあまり利用していないが、優れた交通機関であると思っている。自家用車は常に事故の危険性があるが、かりんちゃんバスの乗務員は常に安全に気を配りながら運行している。また、孫を連れている時に手を振ると返してくれるなど、対応が素晴らしいので、利用はしていないがかりんちゃんバスのファンである。今後、年齢を重ねた時にかりんちゃんバスが残っていてほしい。

AIデマンド交通については、タクシー業界と競合することになるかと思うが、これまでのタクシーについても残してもらいたい。

【市長】

お褒めの言葉をいただき、関係者も励みになると思う。

■デマンド交通の料金形態について

【発言者】

オンデマンドタクシー制度にした場合、非常に利便性が上がるので、料金も非常に上がると思うが、視察された地域では料金形態はどのようになっているのか。

【地域戦略・男女共同参画課長】

料金的にはそれぞれ形態があるが、金額的には300円～500円くらいの単位で設定しているところが多かった。

【発言者】

デマンド交通は、1人しか予約が入らなかったとしても運行するのか。

【地域戦略・男女共同参画課長】

1人しか予約が入らなかった場合でも運行する。

【発言者】

1人しか予約が入らない場合でも運行するのはもったいない気がする。

知るところでは、県内の福祉施設で働いている方が立ち上げた高齢者買い物支援サービスがある。また、デイサービスの送迎車が空いている昼間の時間を利用して買い物支援を行う事業もある。そういったものも活用するという事も考えられるのではないか。

また、かりんちゃんバスを利用する人が何を目的として利用しているかを把握することも重要ではないか。そういったことを市民がもっと知れば利用も増えてくるのではないかと思う。

【市長】

「地域公共交通協議会」を「地域公共交通活性化協議会」に改称して開催している。これにより、「自家用有償旅客運送」等の協議会が認定したシステムの活用が可能になっている。その運行には条件があり、認められる地域と認められない地域があるが、そのようなアイデアは大事だと思っている。

■高齢者のデマンド利用について

【発言者】

かりんちゃん子バス大和四賀線が走る旧道よりも上に住んでいる高齢者の多くは、タクシーを使っている。A Iデマンドは、アイデアとしては面白い。しかし、高齢者はスマートフォンを用いるのは難しいと思う。予約を代行してくれる人がいれば、高齢者にとってはありがたい。

【地域戦略・男女共同参画課長】

予約の方法については、オンラインと電話での両方で対応できる形が理想であると思っている。

旧道より上にお住まいの方のところまで行くことができるのがA Iデマンドのシステムのメリットだと考えている。

■新たな仕組みの活用について

【発言者】

年間約1億円の費用を公共交通にかけているので、それを抑えたいということだと思うが、かりんちゃんバスを減らして、新たなシステムを活用していくことも手段の一つではないかと思う。

【市長】

全部変えようということではなく、現在、かりんちゃんバスで多く利用されている路線は

存続させて、かりんちゃんバスで届かないところをフォローできたらと思う。柔軟な意見をいただきながら検討を重ねたい。

フリーテーマ

■市民と市職員のコミュニケーションについて

【発言者】

様々な課題があり、道路整備が進まない。日頃から、市職員に現場を見に来てほしいと伝えても、なかなか来てもらえない。そんな中、今年は、建設課と農林課の職員が現場を見に来てくれた。それによって理解してもらえたこともあるので、市職員には市民とのコミュニケーションを取ってもらいたい。

また、所属する団体が解散することになり、複数の市所管施設に保管してあった物品を片付けることになった際、生涯学習課が力になってくれた。複数の関係部署と連携してくれて予想以上のスピードで綺麗になった。このように、良いことがあっても体験した人しか分からず、広く伝わらないのは残念。

【市長】

皆さまの意見をしっかり聞き、できるだけ早く対処することを心がける。

■松くい虫被害への対応について

【発言者】

諏訪市内で松くい虫被害が確認された。今後の市の取組は。

【市長】

標高900メートルあたりの地点で発見された。諏訪市では初めての発見。被害拡大防止のために早期発見早期駆除が必要。被害木を伐採し、燻蒸処理を行う。

今後、松林巡視員を増員して監視体制を強化する。諏訪市だけでなく、圏域全体で取り組んでいる。

【発言者】

発見された場合の処理費用はどうなるのか。

【市長】

基本的には、地権者が処理することになると思うが、正確な情報は、後日担当課からお知らせする。

→費用は、市が負担する。

以上

令和4年度 市政懇談会 ゆかり市長とまちかどトーク 議事録要旨

開催日・会場・参加人数

開催日時 令和4年7月12日(火) 19時00分から20時20分まで
場 所 諏訪市文化センター 第一集会室
参加人数 26人

特定テーマ「地域公共交通」について

「かりんちゃんバスの利用状況について」

- かりんちゃんバス 利用経験者 5～6名
- かりんちゃんバス 未利用者 10名程度

●利用目的

病院：1名、居酒屋：5名程度

●利用しない理由

自家用車を利用している 10名程度

■将来の利用見込について

【発言者】

現在は、自家用車を運転できるためかりんちゃんバスを利用していない。あと10年くらいしたら運転免許を返納すると思うので、将来的には利用させていただくことになると思う。

【市長】

かりんちゃんバスで最寄りの停留所から目的の停留所までを検索できるアプリもある。

【地域戦略・男女共同参画課長】

「信州ナビ」で停留所を検索することができる。お問い合わせいただければ最適なルートと一緒に考えたい。

■高齢者の住まいについて

【発言者】

高齢者が点在して住んでいるので、買い物や病院に行く際に、全部回るのは効率が悪いと思う。市内には空き家があり、離れたところに住まわれている方が便利なところに集まって住んでもらう方が良いのではないか。

【市長】

住まいについては、それぞれの事情があるので、皆さまに移動していただくことは難しい。例えば、湖南地区では高齢者が買い物に行く時間帯に合わせて配車をするといった福祉的な取組が行われたこともある。ご意見として承る。

■運賃について

【発言者】

例えば、埼玉県春日部市では初乗り200円で最高で300円くらい。かりんちゃんバスの150円は安すぎるのではないかと。運行頻度については、最低でも1時間に1本程度はあった方が利用しやすい。

また、現在は自家用車を利用しているが、自動車維持費は月に2～3万円程度かかる。タクシーの場合だと往復2,000円として月に10回乗車すれば2万円となる。まもなく運転免許を返納しなければならないと思っているが、例えば、免許返納者等に対してかりんちゃんバスの運賃補助を行っていただくことはできないか。

【市長】

参考にさせていただく。

■その他

【市長】

下諏訪町に行くためにスワンバスに乗り換えていくことができるが、現在、上諏訪駅が交通結節点になっていない。かりんちゃんバスからスワンバスに乗り換える際はかなり歩かなければならない。利便性を向上するための課題である。

フリーテーマ

■AEDの設置場所について

【発言者】

AEDの設置場所についてお聞きしたい。今まで城北小学校にあったが閉校に伴い、使えなくなった。大和方面には設置されているところが多いが、駅から湯の脇方面はあまりないように思う。

【市長】

後日、確認してお知らせする。

→市所管施設では片羽保育園、城北保育園、放送大学長野学習センターに設置している。

地図上で全国のAED設置場所が確認できるホームページを案内。

■上諏訪小学校、上諏訪中学校周辺道路の交通規制について

【発言者】

上諏訪小学校、上諏訪中学校周辺の道路は、狭い道路であるが一方通行でないためすれ違いが困難。先日、上諏訪小学校に救急車が出動することがあり、一分一秒を争うような場合、すれ違いがスムーズにできないのは問題。一方通行にすることはできないか。

【市長】

時間帯を決めて一方通行という道路もあるが、そういった時間で区切るような方法でもよろしいか。

【発言者】

該当する道路周辺の住民に影響があることなので、容易でないことは承知しているが、全時間帯で一方通行が望ましい。

【市長】

警察や公安委員会、地域の方々との調整が必要になることで、すぐに変えられるものではないが、ご要望として受け止め、関係部局と共有したい。

■ウクライナ情勢に関する市の対応について

【発言者】

県内では高森町がウクライナからの避難民を受け入れているが、諏訪市では検討しているのかお聞きしたい。

【市長】

相談窓口を設置している。相談があった場合は、国や県と情報を共有して支援内容を確認するなど体制は整えている。

■上諏訪駅西口の改札口設置について

【発言者】

上諏訪駅西口の改札口設置についてお聞きしたい。

【市長】

上諏訪駅西口に出るには、跨線橋を渡らなければならない状況で、バリアフリー、ユニバーサル視点から親切な構造ではないと認識している。JR、国、県などの関係機関と今後の可能性の検討をしているところだが、西口も東口も平等に利用するということでは、改札

が上にあることもアイデアの一つと考えている。

過去には連続立体交差を要望した経過がある。実現するためには、約4kmに亘って徐々に線路を高くしていく必要がある。事業費として700億円から800億円、資材の高騰などを考えるとそれ以上の規模になるかもしれない。市が単独でできる規模の事業ではなく、実施主体は長野県になるであろう事業。県でもこれほどの大きな事業をすぐに決定できるものではなく、県民の皆さまの理解を得なければならない。そんな中で、将来的な目標に向けた取組と直近の課題解決に向けた取組を行っている。

■子どもの遊び場について

【発言者】

地区にマンションが増え、子どもたちも増えた。保護者から、子どもたちが遊べる広場がないという声が上がっているので検討いただけないか。

【市長】

すわっチャオの中に子どもたちが遊べるスペースがある。屋内なので雨の日でも利用できるがいかかがか。

【発言者】

この地区の小学生の通学路から外れるので身近な場所が望ましい。

【健康福祉部長】

市内には約90か所の児童遊園がある。各児童遊園から半径350mの円を描くと市内全域をカバーできるため、どこにお住まいでも歩いて行ける場所に整備しているという認識であるが、利用しづらい地域もあるかもしれない。活用できる空き地があれば考えたいが、市が土地を購入して整備ということは難しい状況。遊び場は、子どもたちを成長させる大切な環境なので、ぜひご意見やお知恵をお寄せいただきたい。

以上

令和4年度 市政懇談会 ゆかり市長とまちかどトーク 議事録要旨

開催日・会場・参加人数

開催日時 令和4年7月13日(水) 10時00分から11時20分まで
場 所 諏訪市文化センター 第一集会室
参加人数 16人

特定テーマ「地域公共交通」について

「かりんちゃんバスの利用状況について」

- かりんちゃんバス 利用経験者＝少数
- かりんちゃんバス 未利用者＝多数

- 利用目的

駅への通勤、通学
試乗体験

- 利用しない理由

自家用車を利用している = 多数

- 利用したいケース

通院、買物での利用意向 = 少数
飲食の目的 = なし

■高齢者対象のアンケートについて

【発言者】

公共交通を利用していないが、一番の利用者は高齢者だと思う。高齢者は、バス停まで行くことがだんだんと負担になってくるため、市で実施しているタクシー券をもっと利用できれば、ドアtoドアで利便がよく、使いやすいのではないかと思う。

公共交通のあり方は、利用者の利便性が重要だと思うため、高齢者を対象にアンケート等を行い、タクシー券とかりんちゃんバスの比較検討をしてみてはどうか。

【地域戦略・男女共同参画課長】

本年度、地域公共交通計画を策定し、来年度から実行予定である。いろいろご意見を伺う機会として本日のこの場や、アンケート調査も市内2,000人を抽出して実施予定。ご意見を吸い上げて、公共交通の形を検討していく。

【発言者】

公共交通について、市の投資が約1億円、かりんちゃんバスに9千万円補助しているということだが、市の方針として、公費の上限や必要な利用者数、需要、公共交通の利便性をどう考えていくのか。

また、先の説明にあったA I デマンドなど新しい交通網について各都市で取り組んでいるかと思うが、費用や需要など時間をかけて検討すべきだと思う。

基本に立ち返って、高齢化社会に対応するため、アンケート結果を吟味していただき、高齢者の利用要望、需要に見合った投資額など金銭面も合わせて検討してほしい。

【市長】

個人のタクシー利用に対して全額を補助すると膨大な費用となってしまう。現在、かりんちゃんバスの料金は一律150円だが、バス停まで行ける方を対象としたサービスとなる。移動に支援が必要な方に対しては、福祉分野でのサービスが必要になる。もちろん公共交通でカバーできるものがあれば、それは検討したい。

■サービス提供の地域差について

【発言者】

大和方面では、市道をワゴン車で運行している路線があるが、湖南方面ではそのような路線がなく、細やかな路線の要望がある。

例えば、綿半へ買い物に行く場合、湖南からは、消防署前でバスを降りて500~600m歩く必要があるが、大和方面からは店舗前でバスを降りることができる。

西山地区も要望して路線ができたが、中型バスで運行しており、県道まで出ないと利用できず、不便なので利用しなくなった方もいる。市内全域のサービス水準が同程度になるよう検討をお願いしたい。

日赤への通院で利用しているが、年々運行本数が減っており、朝行くと、帰りのバスが3時間後までないため歩くこともある。運行本数や利用状況を調査して、運行の改善を検討いただきたい。

【市長】

ご意見を参考に検討させていただきたい。公共交通の車両が乗降のために停車すると、他の交通を阻害してクレームになることがある。駐車場所の確保が必要となるので地区の皆さまと相談しながら検討したい。

■電気自動車の導入について

【発言者】

かりんちゃんバスについて、電気自動車は導入しているのか。

【市長】

まだ導入していない。

【発言者】

ゼロカーボンやCO₂削減の取組の一つとして、かりんちゃんバスに電気自動車を導入していくことも検討してほしい。

【市長】

今後の課題だと認識している。タイミングを見てシフトしたい。

フリーテーマ

■子育て支援について

【発言者】

25歳から29歳の女性の転出が大幅に増加しているという新聞記事を見た。子育てをしている方も多い世代なので深刻に受け止めている。子育て世代の方から、市は子育て支援より観光や産業に力を入れているという声を聞くことがあるので、諏訪市で子どもを産み育てたいと思えるような子育て支援施策を希望する。

【市長】

人口の増減は、自然増減と社会増減によるものがある。自然増減については全国的に減少している地域が多い。昨年、諏訪市は社会増であったが今年は減少した。子育て世代の女性の転出については、社会減にあたる。地価が高い諏訪市以外の市町村に自宅を新築することや家族の転勤など様々な理由で、女性だけでなく男性や子どもを含めた家族が転出することが課題と分析している。現在は、将来人口推計で推定した人口減少率より低い水準で推移してはいるが、減少率を低く留めるべく努力をしている。

■「諏訪らしさ」について

【発言者】

議会で「諏訪らしさ」とはどんなものか質問が出た際、子育て支援においては、待機児童がないこととの答弁であった。県内他市町村でも待機児童はいないので、子育て世帯を呼び寄せる強力な特徴にならないのではないか。

【市長】

3歳以上児保育と未満児保育で状況が異なる。未満児については、保育室増設など工夫しながら待機児童ゼロを達成している。3歳以上児は少し余裕がある。この状況は他市町村も

同様と思われる。

「諏訪らしい」ということでは、「すわ☆あゆみステーション」の設置が挙げられる。国ではこども家庭庁を設置するが、相談者が安心して相談できるワンストップの窓口をいち早く設置したことはセールスポイントである。

■消防団活動について

【発言者】

家族が消防団で活動している。昨年8月の豪雨で出勤し、避難の呼びかけや状況確認のために地区の高齢者を訪問した。その際、避難の呼びかけをしても自宅に留まりたいと強く主張する方がおられ苦慮したと聞いている。

また、災害時に消防団の公用車が不足したため、消防団員の自家用車を使用したか、がれきでタイヤがパンクしたとも聞いている。その際の補償はどのようになっているのか。

【市長】

日頃の消防団活動にご尽力いただき感謝申し上げます。

災害時の安全確保については、個々の地域や住宅事情等によるところも大きく、必ずしも避難所に避難することだけが安全と言い切れないところがある。ご本人の意思を尊重する必要もあるが、ご自身でそのように判断されても、健康状態等様々な理由で無理にでも避難した方が安全ということもある。非常に難しい問題で今後の課題として研究が必要。

災害時の自家用車使用については、担当課に確認のうえ、後日お知らせする。

→災害時などやむを得ない事情が生じた場合に、消防団で自家用車を借り上げて使用することがある。その損害に対しては、諏訪市消防団で加入している共済制度により見舞金を支払う。

■電気自動車用急速充電器について

【発言者】

市役所敷地内に電気自動車用急速充電器が設置されている。設置の効果を検証しているか。

【市長】

自動車業界は、CO₂削減に効果がある電気自動車にシフトしているが、充電設備がないと普及しない。電気自動車でない車に乗る方にとって不公平感があることも承知しつつ、CO₂削減のきっかけとなるような場所としてご理解いただけるよう分析、研究したい。

■蓼科保養学園について

【発言者】

現在休園している蓼科保養学園は、新型コロナウイルス感染症が落ち着けば再開するのか。

また、蓼科保養学園での生活を経験した児童とそうでない児童がいる中で、その差や効果を追跡しているか。

【市長】

蓼科保養学園の効果は、信州大学の先生を交えて調査している。

【副市長】

蓼科保養学園は、諏訪市医師会の先生方にバックアップをいただいてこれまで運営してきた。開始も、1人の医師の志から始まっている施設。医師会の先生方とともに研究、議論をしているところなので、結果がまとまり次第ご説明できる。

以上